



手術室 高度な医療機器を取りそろえた手術室。最新の術式である「OLIF」「XLIF」ほか、各種の脊椎低侵襲手術を実施する

低侵襲治療・手術とリハビリで患者さんに優しい医療を！

首(頸椎)や腰(腰椎)など、背骨(脊椎)に起因する疾患を専門的に扱うクリニック。最新の知見に基づいた診断・治療を提供し、市内はもとより全国各地、道外からも多くの患者が訪れる。保存療法を基本とし、投薬やリハビリで治療効果が十分に得られない場合の際は、手術治療の提案を行う方針を取っている。



リハビリ室 脊椎疾患に専門的な知識を持つ理学療法士が常駐し、患者一人一人に合ったリハビリプログラムを指導する。

腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎すべり症、腰椎変性側弯症、頸椎症・頸髄症などに対する総手術数は、2023年(1~12月)は518例を数える。そのほとんどが、患者の身体と心に優しい「低侵襲手術」により対応しているところも同院の特徴の一つだ。退院後のリハビリも徹底して支援する。充実した最新設備で手厚いリハビリ治療を提供するとともに、地方の患者も多いため、各地のリハビリ施設との連携を強化し、地元のかかりつけ医の下でリハビリを継続できる体制を整えている。

医療法人 さっぽろ脊椎外科クリニック | 整形外科 | 放射線科 | リハビリテーション科 | 麻酔科(佐藤公一医師)



■住所/ 札幌市北区北13条西2丁目2-1
■予約専用ダイヤル(8:45~17:00) TEL.011-729-4154
■電話番号/ TEL.011-729-1154
■診療時間/ ※完全予約制 月~金 9:00~12:30 14:00~16:30
■休診日/ 土、日、祝日
<https://sapporo-spine.com/>
地下鉄南北線北12条駅・地下鉄東豊線北13条東駅のどちらからも徒歩圏内であり、JR札幌駅も近いなど利便性が良く、道内各地から多くの患者が訪れる。外来患者向けの駐車場(20台分)も備える

首や腰、背中の痛み・手足のしびれ、歩行時の下肢痛に悩んでいませんか？

脊椎の健康を保ち健康寿命を延ばす

超高齢社会の進展に伴い、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなど脊椎疾患に悩む患者は年々増えています。脊椎疾患は運動器の機能低下や要介護の原因ともなるため、適切な診断、治療に努めることが大切です。原因や治療法などについて、長年にわたり脊椎疾患の診療を専門としてきたさっぽろ脊椎外科クリニックの山田恵二郎院長、濱田一範副院長、神田翔太郎医師にお話を伺いました。

企画制作 / 北海道新聞社営業局



濱田 一範 副院長
1999年札幌医科大学医学部卒業。滝川市立病院、浦河赤十字病院、札幌中央病院などを経て2015年から現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医。医学博士

山田 恵二郎 院長
1995年京都府立医科大学医学部卒業。勤医協札幌中央病院、京都市民連中央病院、札幌中央病院を経て2015年に開院。日本整形外科学会認定整形外科専門医

神田 翔太郎 医師
2008年山形大学医学部卒業。自治医科大学附属さいたま医療センターなどを経て、19年から現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医

— 脊椎疾患について教えてください。 —
山田 脊椎は体を支える重要な部分であると同時に、体全体につながる神経の通り道です。脊椎に問題があると、首や腰、背中の痛み、上肢や下肢のしびれなどの症状が出ます。放置していると、痛みで長く歩けなくなるなど、生活の質がどんどん下がっていきます。
濱田 中高年に圧倒的に多いのは「腰部脊柱管狭窄症」です。腰にある椎間板や靭帯、関節が老化により変形・肥大し、神経の通り道が狭くなるために起こります。歩くとき腰から足に痛みやしびれが起き、長い距離を歩けなくなる「間欠性跛行」が代表的な症状です。
神田 若い方にもよく見られる「腰椎椎間板ヘルニア」ですが、この病氣も高齢でも起こりやすくなります。腰の骨と骨の間でクッション役として働いている椎間板が飛び出し、神経を圧迫することで腰や下肢が痛みます。
— どのような治療法がありますか？ —
濱田 投薬やブロック注射、リハビリなどで痛みを緩和する保存治療が基本です。保存治療が続いても痛みが改善せず、病状も進んでいる場合は、手術治療が次の選択肢になります。
神田 近年は顕微鏡などを用いた、小さな傷で身体の負担の少ない低侵襲手術が行えるようになってきました。傷口が小さいので出血が少なく、術後の回復が早いのが最大の利点。早くからリハビリができるので、入院日数の短縮も見込めます。
山田 最新の低侵襲手術が「OLIF」「XLIF」という術式です。背中を大きく切

開して患部にアクセスする従来の術式に対し、「OLIF」や「XLIF」は体の側方から患部にアプローチします。背中の神経や背筋などの大きな筋肉を傷つけず、また、手術中の出血量も少なく、身体に対する負担が非常に小さくなります。ただし、これらの術式は十分なトレーニングを積んだ実施資格を有する医師しか行えません。受診できる医療機関をご確認ください。
— 最後に、首や腰の痛みに悩む患者さんにメッセージをお願いします。 —
神田 治療に早過ぎることはありません。痛みやしびれを「年だから」と諦めたり、「仕方ない」と我慢したりせず、一度、脊椎を専門的に診る病院を受診し、自分の背骨がどのような状態なのかを確かめてみてください。
濱田 趣味のスポーツを続けたいと手術を希望する患者さんであれば、「少しの時間だけ買い物に出かけられればいい」という患者さんはいまです。治療に何を求め、今後どういった生活を望んでいるのか医師とじっくり話し合い、患者さん一人一人の病状と要望に合った治療法を見つけていくことが重要です。
山田 脊椎を専門的に診る整形外科医として、首や腰などの症状の原因を的確に見極め、患者さんの希望や価値観、ライフスタイルなどの生活・社会背景を十分考慮した上で、患者さんにとって最善の治療法を提案できるように、さまざまな治療の選択肢を用意しています。脊椎の健康を守ることは、元気に自立して日常生活を送れる「健康寿命」を延ばすための鍵となるので、気になる症状があれば早めに受診してください。